

平成30年度 第1回 西伊豆町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 平成30年10月18日（木） 午後1時30分から午後3時
2 開催の場所 福祉センター 大会議室

- 3 出席者 町 長 星 野 淨 晋
教 育 長 清 野 裕 章
教 育 委 員 山 本 久美子
教 育 委 員 鈴 木 秀 輝
教 育 委 員 渡 邊 美 成
教 育 委 員 森 本 仁 子

- 4 事務局 事 務 局 長 高 木 光 一
学 校 教 育 係 長 石 田 智 直
社 会 教 育 係 長 萩 本 泰 宏

- 5 傍聴者 なし

6 議 事

- (1) 学校等再編計画について
- (2) 西伊豆町教育大綱について
- (3) 教育行政全般について

局 長 　ただ今から、平成30年度第1回西伊豆町総合教育会議を開会いたします。開会にあたりまして町長から、ご挨拶を申し上げます。

町 長 　みなさんこんにちは。お忙しいなかお集まりいただき、ありがとうございます。皆様のご意見をいただきながら、手元にありますように平成30年10月策定の西伊豆町教育大綱案がありますので、色々ご意見を伺えたらと思っております。

　話は別になりますが、先日台湾の澎湖県に美しい湾クラブの関係で伺ってまいりました。行きましたところ、2年前にこちらの中学生を受け入れ、冬には西伊豆町に子どもと一緒に来られた方と話す機会がありまして、その方曰く、子どもはメールでやり取りをしていると言っておりました。ただ、言葉は中国語ではなく英語ということでしたけれども、今まで皆様に関わられて、そうした繋がりが今でも残って

いるということに嬉しく思うとともに、これからもそういった活動をすることによって国際化というのも開けてきますし、日本は島国ですので、異国の文化や人と接する機会はないですけれども、世界はグローバルになっており、日本人のみではなく、白人や黒人など、いろいろな方が世のなかにいるという多種多様なものを受け入れるということも必要だと思いますので、そういったことも時代に即して取り入れていければと思いますので、色々なご意見をお願いしたいと思います。

局 長 ありがとうございます。引き続き、議事に入ります。議事の進行は、座長であります町長をお願いいたします。

町 長 それでは、議事の（１）「学校等再編計画について」事務局から説明をお願いします。

教育長 学校等再編計画について、最初から話すと非常に長い話になりますので、４月からのことについて、ところどころご説明させていただきます。４月１９日に賀茂幼稚園統合説明会を中央公民館の講義室で開催しております。こちらは園児、未就園児の保護者への説明会になり、賀茂幼稚園を伊豆海認定こども園の方へと来年度移したいということをお話しました。そのなかでは異論はなく、保護者の皆様も納得されたと捉えております。

それから連休明けの５月９日に町の文教施設等整備委員会を開いております。この委員会においては、昨年度末に事務局から示した１案と２案についての検討をおこなう予定でしたが、PTA関係の引継ぎが上手くいっていなかったというところで、新しく会長になった方々が会員への説明が上手くできないというお話でしたので、それであれば事務局の方で各会場へ出向いて説明をおこなうということで、６月に賀茂小学校区、田子小学校区、仁科小学校区で説明会を開いております。事務局主催ではなく、PTA主催で事務局が出向いて説明いたしました。

５月１０日には栗原地区で説明会をおこないました。仁科小学校、西伊豆中学校に隣接する地区の会合になります。この会合に行ったというのは、現在の西伊豆中学校のグラウンドに嵩上げと大きな建物が建つと栗原区の神社が窪地になり、日当たりが悪くなるということから、それについて理解を求める説明会で出向いたのですが、そこで出

たことについては、神社については了承が得られそうでしたけれども、イメージ図が欲しいということでした。その段階では1案か2案かははっきりしていない段階でしたので、2つのイメージ図をもって、翌月の6月10日に栗原区の説明会に行きまして、そこでは高い建物で日照権の問題、神社と栗原地区の日当たりはどうかということ、神社のことから新たな課題をいただきまして、そのあと課題に答えるための資料作りを建設関係の会社の方と相談して作っております。

それから6月11日賀茂小学校区での1案と2案についての説明会。同じように6月13日に仁科小学校区、6月19日に田子小学校区で説明会をおこないました。その1か月後の7月19日に2回目の文教施設等整備委員会を開きました。

そして、各PTAから1案2案について、どちらがいいのか話を聞く予定でしたが、町が分かれるような形で北部の方は1案より2案の方がよい、南部の方は1案でも2案でもなく、逆に自分たちはこういう案がいいということで、それぞれ案が示されました。そしてこの案を検討しようにも、それぞれが自分の主張を盛り込んでおり、お互いに自分の地区へということもありましたので、会のなかでも意見が出ませんでした。そして意見が出たとしても感情的な意見という場面もありまして、あまり感情に走っても統合後に子どもたちがどうなるのかという心配もあります。

そこで意見案をすべて引き取って、町長に相談をしていただきまして、調整案というものを作りました。ただその調整案というのは、来年度賀茂幼稚園と伊豆海認定こども園が統合をおこなう、そして2021年度に中学校の統合をおこない、統合先は賀茂中学校。そしてその間に校舎園舎の建設をおこない、2024年度には小学校、中学校、認定こども園を現在の仁科小学校と西伊豆中学校の敷地内にまとめたいという案であります。この案について果たして委員さんの了承が得られるかどうかがあります。

もしそうでない場合は、また会合を丁寧な議論をして、1つの案が認められたとしても、議員さん方が認めないということになりますと、また1年2年かかってしまいます。ですので、議員さん方にも打診したところ、ほぼそちらでという回答でした。そして9月27日にその案をもって文教施設等整備委員会へと臨みまして、その調整案が認められました。そして10月10日ですが、栗原区の説明会で建設会社から示された日照の問題について示すことが出来まして、ほぼ栗原区

の方については解決しました。それからこれまで栗原区の会合を皆様が集まったなかでやっていたのですが、毎回それでやっていると厳しい日程になっていくということもありますので、今後は代表の方と事務局で話し合いをおこなうということで同意していただきました。

それから今週になりまして、月曜日に賀茂小学校区で調整案についての説明会を開きました。森本委員にも参加して頂いておりまして、突然ですが何か感想はありますか。

森本委員 保護者の方たちは納得したといえますか、色々な意見はお持ちだと思えますが、一応了承していた感じだと思えますが、通学の問題で不安定になって震災が来て道路が寸断された場合に、子どもたちが帰れない状態になります。そうした時に校舎のなかで子どもたちを保護してもらえるか、保護者は気になっていたかと思えます。

町 長 昨日の夜に私の姉の所に行きまして、そこの子が小学校にまだおりますので、説明会の感想を言っていたのですが、納得といえますか、しょうがないと言っておりました。子どもの人数が1学年20人というのが今の幼稚園生の学年なので、統合した頃の6年後というのは、1個に集めても20人だと3つは無理なので、妥協でも諦めでも、今年年中さんが賀茂幼稚園で4人ですので、それを考えるとしょうがないのかと。

2つか3つは反対するような意見はあったと言っておりましたが、親の不安はいつまでたっても尽きないので、なるべくそれを町が寄り添っていくことを、教育委員会も考えてくれているので、最終的には地区の避難所としても作りたいと区の方でも説明しておりますので、もし帰れない場合にはしっかり学校の方でお預かりさせていただくことも踏まえて、この方法が決まれば個々の学校に行くための保護者の通学や災害の不安、制服問題が出てくるので、そういうものを解消できるような、2年間の会議を別に設けてもらった方がいいのかとも思っておりますので、色々な意見は沢山言ってもらえた方がいいかと思っております。

教育長 先週の土曜日に防災の関係で話がありまして、そのなかで印象的だったのが地球上で100%安全な場所はないということなので、結果的に100%はないでしょうが、100%に近づける努力は怠らないようにしたいと思っておりますので、皆様お気づきの点がありましたら、事務局へお知

らせください。翌日が10月16日で田子小学校の説明会になります。

こちらでも今お渡しいただいたような形で終わったというように捉えております。そして今晚に仁科小学校で説明会が開かれます。仁科小学校が終われば、こちらに新聞記者等を集めて発表してもいいかと思いましたが、発表については今月末の文教施設等整備委員会にて行なうことができると考えております。

以上が学校等再編についてになります。

町 長 ありがとうございます。今の件で皆様からご不明な点や質問したいことがあれば、こういう機会ですので聞いていただければと思います。

鈴木委員 反対の意見はどのようなものが出ているのですか。

教育長 自分は反対だというはっきりしたものはありませんでした。ただ、私の捉え方が相手の方と違ったことについての追及はありました。それぞれの地区へと引き合っという表現をしたことについて、私たちの地区へと求めているということではなく、安全なところへと考えているというご意見でしたので、色々な考えの方がいるということで理解しておりますと答えました。

局 長 先ほどの森本委員から災害時が不安との話もありましたが、通学路の整備、改修も必要であると考えています。新たな校舎建設時には、工事用の道路として農道の拡幅も検討されていますので、そこを通学路として整備し活用することも考えております。それから通学バスについても心配されておりましたが、大久須と神田地区からバスを出さないと、宇久須バス停まで歩くのは大変であると認識しております。

町 長 その辺は学校統合するにあたって、多少お金がかかってもきめ細やかに対応した方がいいです。宇久須の方は家を出る時間が早まってしまうので、その辺の対応を厚くさせて頂きたいと思えますし、一応教育委員会の方からある程度この案でいけるのであれば、動きは来年度からしなければならぬため、職員を2人ほど増やして、建設の設計や土地交渉も今の道路ですと工事車両も入りませんので、まずは場所を拡幅するための土地を買って、そこに道路を作っということもありますので増やしてほしいという要望も来ておりますので、うまくそ

この部分もやってスムーズに対応できるように行政側はバックアップしたいと思っておりますので、皆様からも住民からこういう話を受けているという話も出してもらった方が動きやすいと考えます。

森本委員 運動場は一つになるのですか。

町長 今の賀茂小学校と賀茂中学校と同じ形です。でないとな敷地が取れません。

森本委員 小学校と中学校で別々には取れないのですか。

町長 別々は厳しいかと思えます。

教育長 田子小学校から体育館の使用についての意見は出ました。雨が降った時に小学校中学校が一緒ですと、子どもたちが内で遊べないのではないかという心配もありました。ですけれども、考えていることは大きな体育館を1つ建てて、そして校舎の上の方に大きなホールをすることです。ホールの大きさについては、バレーコートまたはバスケットボールコート1コート取れるくらいのもので出来ればと考えております。これも避難所を兼ねてとも考えておりますので、そのようなところで話は返しました。

町長 なので、うまく予算も取れれば。学校建設と防災面の予算も持ってこられれば、ただの文教施設の建物よりかは多少良くなると思えます。

森本委員 小学生や園児の声により、受験勉強をする中学生の気が散るのではないかという保護者の方もおりました。

教育長 そうですね。幼稚園との間に体育館を置きたいと考えておりますので、その声が大きくて困るというのは、あまり考えられないと思えます。運動会の練習などの時はあるかもしれませんが。また、田子小学校の説明会のなかで、義務教育学校と言っているが、同じ建物のなかで併設型の小学校、中学校ではないかという意見もいただいております。

それについては今のところ義務教育学校で考えており、それは小学

校も中学校も非常に人数が少なくなり、同じ建物のなかで校長が2人、教頭が2人、事務職員2人というのは、細やかな指導という面ではいいのかもしれませんが、トップが二人立つという難しさというのもあります。なので、9年間見据えての教育を実現させた方がいいと考えております。

町長 他にありますでしょうか。そうしましたら、(2)の「西伊豆町教育大綱」につきましてお願い致します。

教育長 本日、お手元に2つの資料がお配りされております。この会が始まる前に議案書送付の際に入っていた資料、そして本日お配りした資料のどこが違うのかといいますと、ほぼ同じです。町長の方にも事前に見て頂いておりますので、それぞれ目を通していただいているかと思えます。簡単に見ていきたいと思えます。

まず西伊豆町教育大綱案になりますが、2019年から2022年版になります。2018年までのものについては、これも教育委員会で配っていたかと思えます。それから発展させたものが2019年からということになります。この大綱を作るにあたって、2015年から2018年版をベースにしております。それに静岡県の「ふじのくに有徳な人づくり大綱」というものと、平成30年度の教育行政の基本方針と教育予算という県教育委員会が出しているもの、さらに静岡県の教育というもの、静岡県教育振興基本計画2018年度から2021年度版を一通り見たうえで、西伊豆町ならではの地方色も加えまして、この大綱を作っていきます。その割にどうなのかというご意見も出てくるかもしれませんが、これでやっていきたいという所にあります。

1枚めくっていただきまして、そこに基本理念の「夢を育み、故郷を語る人づくり」という風にさせていただきました。それはその下にある西伊豆町民憲章、日常のなかではあまり見ることはありませんが、このようなものが西伊豆町にはあります。これから先もずっとこれは続いていくものだとして理解しております。これは手を付けようがないので、その下の基本目標の「西伊豆で育ち、育てる」については、変える必要がないと思えますので、そのままになります。そしてその下のイノベーション、グローバル、ローカルとあります。

この3つについても、これが基本になるであろうということで、そのままにしております。ただ、1点イノベーションについては、改革や革新と訳しておりましたが、そのところは比較的穏やかに斬新性

というようにさせていただきました。

とくにこれから学校再編がおこなわれるわけですが、学校再編は衝撃的な改革だと思いますので、そのところを粛々と煽らずに進めていきたいというところから、革新からトーンダウンした文言を使わせていただきました。それから、グローバルとローカルについては、どちらも基本的なところとして、世界的な視点とともに足元を見つめる視点というのにも必要だということで考えました。世界へ出て行っても、西伊豆を語れるようにしたいという願いもあります。

それから次のページをお願いします。これまでのものについては大柱2つ、中柱3つということで書かれておりましたが、大柱については黄色の背景で示して、中柱については白の背景でまとめてみました。

大柱の1点目はより良い教育環境づくりにむけて、園と学校の再編を進めるということで書かせていただきました。これを編集する段階においては、どこをやるのか具体的に見えてきていないという段階がありました。最近になって方向性が見えてきたというところでもありますので、大きな夢を熱く語るにはまだまだ早いところで、どちらかといえばこういう風にといい書き方になっております。

それから2点目としては、地域の特色を生かしつつ、世界のどこでも通用する人材を育てます。地域があり、町があり、県、国、世界があるというなかにありますけれども、統合の学校が果たす役割というもの、そこにあるかと考えます。宇久須地区と安良里地区で賀茂中学校が出来たときに、そこで地域の広がりが出来ました。同じように田子地区と仁科地区も西伊豆中学校が出来たことによって、地域の広がりが出来てきました。それが1つになれば、さらに大きな地域の広がりができます。その先の世界へ広げていければという願いも込めております。当然地元で生きるという選択肢もあってもいいのですが、その地元で生きるということは自らが選択した生き方であってほしいと考えます。それから中柱1点目の家庭、学校、社会の連携を推進します。このような作りで、人を中心に据えた横の連携を進めていきたいものになります。それから中柱2点目の園・小学校・中学校・高等学校・社会の連携を推進します。これは人の成長過程に寄り添った縦の連携を推進していきますという意味合いです。そして中柱3点目の多様性を認めた社会の実現を目指すということ、これは再編とも絡みまします。園や学校の再編は、お互いの個性や価値観の違いを認め合うことから始まるということを下から2行目に書いておきました。それをま

た世界にまで広げていきたい。幸いALT 3名とCIR 1名を配置しておりますので、彼女たちにフルに活躍していただいてそのような社会が実現できればと考えております。

重点施策というのが最後にあります。これは2015年から2018年版と比較して記載したものになります。ざっとご覧になっていただければと思います。この重点施策を検討する際に、学校教育に特化しているようなところがあると感じたのですが、改めて学校教育だけでなく、家庭教育や地域のことも考えてみたときに、家庭教育というのなかなか教育行政が踏み込めないところにあります。地域についても、今は地域が大きく変わろうとしている時期であるかと思います。それは地域が維持できなくなるという部分も含めてですが、そのところで地域に新たな刺激を与えるというのも勇気のいることで必要最小限にポイントを絞りたいと考えます。

町の方で防災という言葉が1つのポイントとしておりますので、その方向で進めていくのが、私は妥当ではないかと考えます。ですので、かなり学校へ偏っておりますが、現状学校に頼ることが必要かと考えてそこにまとめてみました。

町 長 ありがとうございました。こちらの西伊豆町教育大綱につきまして、何かご意見やご質問ありましたら、お願いします。

山本委員 いいのでしょうか。教育大綱について、教育長がおっしゃられたように学校教育というのが重点になっているのですが、西伊豆町の住民を思うと学校教育を受けていない方が圧倒的に多いと思います。それから世のなかが変わってきていると思います。

例えば家で話をしていて、台風の影響で停電になるかもしれないということで、今ですと携帯電話の充電器や懐中電灯にも充電器がついていて、色々なものが変わってきています。そういうことを若い人と住んでいる方は多少覚え、触れるチャンスはあるかと思いますが、そうでない学校教育をきちんと受けられなかった世代の人しかいない世帯が西伊豆町は多いと思いますので、そういう人たちへの教育も必要なのではないかと感じました。

町 長 文章で書いて伝えられるものであれば、町の広報誌に載せられると思います。あとは下田でおこなっている防災大学のようなものの小さいものを福祉にやってもらうかでしょうか。

山本委員 あと、携帯電話の使い方の教室もやっている町があります。

町長 一番いいのは老人会が各地区あれば、総会や定例会の時に行かせていただければいいのですが、どんどん無くなっております。なので、なかなかお年寄りに発信できる機会も無くなりつつあるので、行政としても難しいです。逆に山本委員がおっしゃるように、私もスマホの使い方がわからないものもあります。

山本委員 町長がおっしゃるように、私もお年寄りの部類なのですが、老人会はまだ早いのではないかと思う人たちがとても多いと思います。

町長 教育とは離れてしまうので、どこかにお願いして、考えてみます。

鈴木委員 この前に町の方から配られた光ボックスを貰ったのですが、あまり利用しておりません。そういうものを用意はしていただいていると思いますが、利用の方法がわからないというソフトの部分足りないのかと感じました。教育大綱自体はスッキリとまとまっているかと思えます。

町長 他にありますか。とりあえず教育大綱については以上となります。それでは（３）の「教育行政全般」について、教育に関係ないところでもいいですので、皆様が日頃感じていることを言っていただければと思います。

山本委員 この前に賀茂幼稚園の運動会を見に行きまして、孫が東京にいましてそちらの方も見に行きましたが、全く違いました。初めて東京の方の運動会を見てびっくりしたのですが、何が違うのかといいますと、東京の方は人数が多いので手がかけられないというものもあると思いますが、やる種目が床運動に縄跳び、跳び箱、鉄棒というような体育の授業の発表会というような形で、親子でやる種目も二人三脚や大縄跳びと色々なものを作っておらず、運動の授業をそのままやっているというような感じでした。

そのあとに賀茂幼稚園の運動会を見たら、先生たちがたくさん手をかけて作っており、ボール運びでも運ぶ物自体も手の込んでおりました。どちらがいいということではないのですが、ただあれだけ準備を

するのは先生が大変だと思いました。先生たちの時間があるのですからいいのですが、聞いてみたら残業までして大変だということでしたので、ここまで華美にする必要はあるのかと思いました。

町 長 それは運動会シーズンになりますと、伊豆海認定こども園も仁科認定こども園も残業していると思います。かといって保護者が求めて作ってほしいという要望が出ているのではないと思いますので、そうすると先生の自己満足の世界なのかと捉えてしまいます。

ただ、見たときにあったほうがいいに越したことはありません。競技をしている子どもたちはそれを見てうれしいとは思いますが、なくてもいいのではないかとも思います。難しいのは、園は女性の世界なので、それについて突っ込む人もおらず、今までやっていたからということでは来られると誰も反対も出来ないと思います。

局 長 その辺については毎年課題になっておりまして、今年度の伊豆海認定こども園と仁科認定こども園の運動会では、出来る限り昨年度のものを使い回すようにしました。保育士のなかには、運動会では子どもたちの成長した姿をどう見せることを主に考えるべきで、色々なものを作るのに手間をかけるのはおかしいのではないかという意見もあります。

その辺は園長の方にも改善をしていく必要があるのではないかと話をしております。賀茂幼稚園につきましては、2時に終わりますので時間的余裕はあるかと思えます。

町 長 それに加えて最後だから力を入れているところもあるかと思えます。ただ来年からは伊豆海認定こども園と統合されて、仁科と合わせて2園になりまして、賀茂幼稚園に配属されていた人たちがあふれるので、それらを配属したのちは、臨時職員を減らす形で調整をかけていくとは思いますが、いずれにしても子どもは減るのに正規は増えるので、その辺は余ったので暇なので作るということではなく、逆に受け入れ時間を30分早くして、退園時間を30分遅くするなどをした方がいいのではないかと思います。

でないと、8時から仕事が始まる保護者は7時45分くらいには職場につきたいと思えますので、そうすると家を出る時間が何時なのか考えますと、ある程度早めから入れてあげることも考えなければならぬと思えます。その辺が難しいと思えます。

森本委員 職員さんたちにも家庭がありますので、早くしてしまうとその人たちの負担になってしまいます。

町長 なので、消防署のような完全2交代。朝が大丈夫な人が朝、それを週ごとなどで変えて、7時から来ている人はお昼になったら帰るということにしてしまえば。昼から出勤する人は夜8時くらいまでかかるけれども、午前中に家のことが出来るようにすれば、朝から晩まで拘束するからきつくなってしまう。

また6年後くらいに園を1つにしななければならないので、あまり職員の採用が出来なくなります。園長先生が行政1から出向しているのので、その下の方が石田係長よりも年下かと思います。

局長 45歳です。

町長 なので、あと15年ほど退職がありません。減らないので増やすことも出来ません。新人も取れません。ただ、あの人たちだけで行くというのも不安です。

鈴木委員 年代が固まっています。その前もそうでした。今の中年の人たちが一気に入っています。

町長 序列も変わらなければ、出入りもないので完全に形が出来てしまうと怖い。

森本委員 大学などで幼稚園の先生の資格を取って、地元に戻ってくるというのもあればいいのですが。

町長 逆に戻ってきてほしいのですが、空きがなければ。

森本委員 故郷に戻ってきたくても、結局は職がなければ、出て行ってしまいます。

町長 学校の先生もそのような感じですか。中学校2校を1つにして、小学校3校を1つするというと3校分の職員があふれてしまうので、下は取れなくなってしまいます。なので、期間を開けて、計画的に統合してく

れというのが県の方針です。本当は公約通り来年の4月からやりたいのですが、そういうわけにはいきません。

教育長 他の市町も統合を控えています。早く表明しないと。

町長 下田も東伊豆も控えており、表明した順番になりますので。

森本委員 優先順位は表明した順番なのですか。

町長 同じ年にはできないので、県から時期をずらすようにと言われるとそうせざるを得ません。

鈴木委員 幼稚園の運動会の話も、中学で言いますと、部活のなかでも規制をかけようというのと、部活でこそ子どもと関わりを深めたいという先生もおりまして、それと似ていると思います。私たちも運動会の時には、昨年度はこのようなことをしているが、今年はずっと面白いことをしようという発想でいたので、自分はどちらかといいますと、もうちょっと面白いものを作っていこうと思います。

下田の幼稚園にいたときも、昔はこのようなことをして面白かったので、こんなことをやってみないかという提案を先生たちとしまして、だんだんいいものが出来上がってきました。そうすると傍から見ると遅くまで大変だと思われるのですが、実際やっている先生のなかにはそれが楽しみとしている先生もいるかもしれません。それは幼稚園のなかで話し合ってもらわないといけないと思います。

教育長 賀茂幼稚園の運動会と仁科認定こども園の運動会は少し違うかと思いました。賀茂幼稚園は跳び箱とかあったのですが、仁科認定こども園にはなくて、体育館でやっていたせいかもしれませんが、自転車などがありました。

町長 西伊豆町3園が3園なりに入園式や卒園式でも違います。賀茂幼稚園の卒園式はすごいと思いました。クオリティは高く、相当練習してきたのかと思うほど、いい演劇です。

森本委員 演劇をやるのは賀茂幼稚園だけなのですか。

町 長 そうですね。私の子どもは伊豆海認定こども園にいますが、伊豆海認定こども園は簡素です。歌や恒例の会合などがあつたりしますが、本当にびっくりしました。私たちが幼稚園の頃は、歌もやりましたし、保育園の時は劇をやった記憶もありますので、そう考えますと、今の伊豆海認定こども園は簡素になったと思います。

それぞれの特色があってもいいと思いますけれども、山本委員が言われるように必要以上の残業をしてまでも、そういうことはよくはないと思います。もしその時間があるのなら、子どもの関わりに使ってもらった方がいいかと思いますので、難しいですけれども事務局の方で考えて頂ければ。

教育長 子どものベクトルを揃えるという意味では必要な行事ですし、それはまた先生方のベクトルを揃えるという意味でも有効なのですが限度があります。

町 長 一生懸命になりすぎて、あらぬ方向にいてもしょうがないです。他にありませんでしょうか。

森本委員 よろしいでしょうか。小学生なのですけれども、来週西豆の記録会というのがありまして、松崎小学校を会場にやっているのですが、毎年やっていただければと思います。今の時点では一年毎の開催でして、今年記録会がありますと来年は音楽会になります。

町 長 昔は全部やっていたのですが、今は違うのですね。松崎小学校のトラックが一番広いので、松崎小学校が会場になるかと思います。

森本委員 しかも、5年生6年生が全員参加でして、100mは全員参加でもう1種目、幅跳び、ボール投げ、800m走のどれかに出なければなりません。

町 長 それの主催はどこになるのでしょうか。

教育長 主催は西豆の教育研究会だと思います。

森本委員 5年生で当たってしまうと、記録が1年変わると全然違いますので、可哀そうです。なので、毎年開催して頂ければいいのですが。それも子どもも少なくなってきましたので、全学年でもいいのではないかという

話もあります。今の子どもたちはゲームばかりで、外で遊ぶこともないので、ボールを投げられる子も少ないです。

教育長 私も鈴木委員も中学校の先生でしたので、行事が沢山に増えすぎて、学習内容が進まないという問題が出てきましたので、行事を減らすという動きのなかで、陸上と合唱をどうするかというときに、どちらもやめられないという所から隔年で開催になったという話は聞いております。

鈴木委員 結局、陸上の練習をおこない、終わったと思ったら運動会の練習もやり、2学期になったら音楽会の練習をやっており、他にも学校の行事もありますので、行事に追われているということになってしまいました。そのこともありまして一時水泳をやめたときもありました。そこから手続きのミスや保護者からの意見もありまして、3年くらいあとに復活はしました。

陸上と音楽会が交互になったのは、西豆教育研究会の目的に交流を図るというものもありますので、単なる競技をするだけなら学校内でも出来るのですが、大勢でやる方が感動はあります。そうすると西豆のような大会で陸上競技をやっているほうが学校とは違うものはあるのですが、先ほどの行事との兼ね合いも考えると、交流という面でしたら交互でもいいのではないかという発想だったのではないかと思います。

水泳なんかは大きな学校は人数が多いので人を出せるのですが、少ない学校は出たくないのに無理やりやらされるという子も出てきてしまって、そういう学校の先生から小さい学校はきつい、つらい思いをしているという話は出ておりました。

町長 なかなか難しいですが、そういう意見があったということは出来れば言って頂ければと思います。中学校の運動会も学校それぞれで、賀茂中学校は記録会という名称でやっておりますので、記録は取っているのですが、西伊豆中学校は取っておりません。

教育長 賀茂中学校はストイックに記録会というようにやっていたのですが、最近になりまして、僥倖種目を加えてきました。西伊豆中学校の方は、記録会のようなことはやっているのですが記録は取りません。150m走としてやっているのですが、150m距離があるかも分かりません。

町 長 どう計算してもありません。1周が200mなのに、スタート地点から考えても足りません。

森本委員 中学校を一緒にやるということはできないのでしょうか。

教育長 賀茂地区の大会が下田の方ではあります。他にも陸上競技協会の大会もありますので、チャンスはあります。

町 長 あとは統合を踏まえて、先に中学校の運動会か記録会を合同でやるのもいいと思います。そこで学校対抗ではなく合同チームにしまして、ムカデ競争のようなチーム競技は出来ませんが、そこである程度顔を知って仲良くなればその後一緒になるのはスムーズになるかと思いません。逆に松崎と一緒に行動よりかは、そちらに重きを置いた方がいいと思います。当然合唱でも1つの学校で3学年しかないので、2校でやってしまえば6学年分出来ます。他にありますでしょうか。今上がっております議事が終了しましたので、司会を事務局へお戻しします。

局 長 他に何も無いようでありましたら、閉会させていただきます。それでは以上を持ちまして、平成30年度第1回総合教育会議を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。

以上